



ワールド・シアター・デイ 2022

ピーター・セラーズ (アメリカ)

友人のみなさんへ

毎分毎秒、際限なく更新される情報に^{さら}晒されながら日々を過ごすクリエイターのみなさん。私はあなたがたを、私たち独自の思考、視界、領域へ連れ出したいのです。もっと^{おお}大きな時、大きな変化、大きな意識、大きな展望のあるところへ。私たちは人間の歴史の一部をなす一つの大きな時代のなかで、内なる自分自身、人と人、人ならざるものとの関係をめぐる深刻な変化を体験しています。この変化は人智のおよぶところのものではなく、言葉に書き記したり、口にしたり、表現することはおよそ不可能です。

私たちは、24時間垂れ流される情報のサイクルの中で生きているのではありません。時代の境目に生きているのです。私たちは新聞その他のメディアにはとても手に負えない体験をしています。この重大な変化や破断を説明できる言葉や動き、ビジュアルイメージが、はたしてあるでしょうか。いったいどうしたら私たちは、現在のこの生活について、情報ではなく体験として、伝えることができるでしょう。

演劇は体験のアートです。

プレス・キャンペーンや擬似体験、おぞましい予言に席卷された世界で、私たちはどうしたら、この絶え間なく繰り返される^{おびただ}夥しい“数”を乗り越え、一度きりの人生、一つの生態系、友情、あるいは異郷の空の光のなかで、神聖にして悠久なる体験を得られるのでしょうか。新型コロナウイルスは2年をかけて、人々の感覚をにぶらせ、生活の幅を狭め、つながりを断ち切り、私たちを奇妙なグラウンドゼロ生活に追

いやりました。これから数年のうちに、私たちはどんな種を蒔くべき、あるいは蒔き直すべきでしょう。生い茂りはびこった外来種は根こそぎ刈り取るべきなのでしょう。多くの人が境目に立っています。理性なき暴力がそこかしこで突発的に生まれています。既存のシステムの多くは、現在進行中の残虐な行為の温床であることが明らかになってきました。

記憶をたどる儀式はどこへ行ってしまったのでしょうか。私たちは何を思い出すべきなのでしょう。せめて、思い出すことを通じて、体験したことの無い事態に備えてリハーサルをさせてくれる儀式はないのでしょうか。

壮大な展望や目的を持ち、回復、修復、ケアをもたらす舞台には新しい儀式が必要です。必要なのは娯楽ではなく、一つの場所に集うことです。空間を共有すること、そしてその空間を耕すことが必要なのです。私たちには、すべてが等しく、なにかに耳を傾けるための護られた空間が必要です。

劇場は、人々と神、植物と動物、雨と涙が等しく存在し、再生するために、地上に創造された特別な空間です。あらゆるものが等しく存在し、なにかに耳を傾けるこの空間は、目には見えない美しさに照らされて、脅威、平静、叡智、行動、忍耐の相互作用によって生かされています。

釈迦は「華嚴經」のなかで人生における 10 の修行の段階を挙げていますが、驚くべきことに、「一切のものを幻影として捉える」という修行がそのなかにあります。演劇は古来、心を解放するような明晰さと力強さをもって、この世の生を幻影のようなものとして提示し、私たちに人間の幻想、錯覚、盲目、拒絶の本質を見せてきました。

私たちは、自分の見ているものや自分のものの見方を信じるあまり、もうひとつのリアリティや新しい可能性、別のアプローチ、目に見えない関係性、時代を超えた結びつきに目を向けたり感じたりできないでいます。

私たちの心や感覚、想像力、歴史、未来を根本から整え直す時がきました。ただし、この作業はひとり孤独にできるものではありません。だれかと一緒にしなければならない仕事です。演劇は、この共同作業への招待状です。

あなたの仕事に心からの感謝を。

ピーター・セラーズ

翻訳：後藤 絢子

Translation: Goto Ayako



公益社団法人 **国際演劇協会 日本センター**
Japanese Centre of International Theatre Institute